

## 第 1 回 甲賀市地域福祉計画審議会の意見等（まとめ）

○日 時： 令和 7 年 7 月 18 日(金) 14：00～15：30

○場 所： 水口社会福祉センター 会議室 1

○議 事

(1) 第 2 次甲賀市地域福祉計画の取組結果について（令和 6 年度分）

(2) 重層的支援体制整備事業の取組報告について

(3) 甲賀市地域共生社会推進本部会議の結果について

上記の審議会にて出された意見等のまとめは以下のとおり

### 1. 地域共生社会の実現に向けた意識醸成、啓発について

○市役所には多くの業務があり、それを全庁で共有することは難しい。また異動等により担当者が変わってしまう。結局、それが関係者や市民からの相談のしにくさにつながっていると感じる。

そういった点からも、「懐かしい未来新聞」のような形で職員が自ら所属している課以外のことを知る機会を設けているのは良い。即座に成果は見えなくても、長期的に見ると大きな成果につながるのではないか。

○地域共生社会やウェルビーイングという大きな目標は、市民にとってどのようなことなのかが分かりにくい。それを分かりやすく具体化するのがこの審議会であり、それを見知った市民が「じゃあ私も〇〇してみよう」とする動きが生まれるような場としていきたい。

### 2. 多様な主体の協働と参画について

○地域共生社会は本当に実現するのか、住民はどういった協働をすればよいのかと、自治振興会や区・自治会からはとまどいの声もある。そのような意味において、まず動いて協働しながら示していくプロセスが必要。

- 協議会やネットワークなどは既に多様に存在するが、地域単位（対象エリア）がばらばらで、区長や民生委員の混乱につながっている。新しく協議会を立ち上げる必要はないが、既存のネットワークを活用し、上手に整理し、地域の負担感を軽減しながら地域づくりを進めていく。
- 地域共生社会が実現すれば、ひとりの困り事が「このように解決していくのだ」というイメージが湧かない。具体的なイメージを掴めるように言説することが必要。ひとりの困りごとを通して、関係者間で共感を深めながら、地域生活課題を解決していければよい。

### 3. 地域づくりコーディネーターの人材育成について

- 属人的な事業展開では、積み上げてきたことが崩れてしまうリスクがある。動きをつけるために、属人的な職員は貴重であるが、誰がやっても担保される仕組みづくりにも同時に着手してもらいたい。人材育成は、常に同時進行でやるべきだと感じる。
- 属人的というのは、その人の人柄やキャラクターに起因するものと感じるが、その人が周囲に与える影響や地域へ広げていく手法が、一つの技術であるならば、そのスキルは伝達可能で引き継げるものではないか。
- 窓口でサービスを紹介するだけでなく、「人」と「人」、「人」と「社会資源」をコーディネートし、マッチングすることが重要。地域には多様なコーディネーターが既に存在しているため、コーディネーターと地域づくりが一体的につながっていける体制整備が必要と感じる。

### 4. その他

- 30年前の地域社会を振り返ると、社会教育部門が地域づくりの主体であり、地域の青年団や婦人会、老人会など、地域のつながりがあった。そのコミュニティの中に自分が後から来た存在で、そこに住まわせてもらっていたという感覚が残っている。20年、30年先の地域を担う世代を、今の地域の中で育てていくのだという感覚を大切にしたい。